

既存アプリケーションの作りが“NAS前提”になっており、やはりクラウド上にNASが欲しい



課題・悩み

- LinuxやWindowsをNASとして立てても良いが、冗長性などを考えると管理が手間である
- 障害時の切り替えを自動化したい。また、各種通知も欲しい。
- サイジングが面倒なので、容量と性能だけ指定したら使えるNASが欲しい。
- NASのバックアップも必要になるが、その煩雑さも解消したい。



解決策：クラウド上で簡単に動作するNASサービスやバックアップサービスを利用する。

● NASサービス

a. Cloud Volumes ONTAP (CVO) for AWS/Azure/GCP

- フル管理者権限を使って、必要性能に合わせてスペックを変更できる
- 検証環境用に、シングル構成／HDD構成の安価なパターンも可能

b. Cloud Volumes Service (CVS) for GCP/AWS もしくはAzure NetApp Files (ANF)

- 容量と性能(3段階)を選べばすぐに使えるNASサービス
- マネージドNASサービスのため、CVOと比較して使える機能が限定されるが、バージョンアップやパッチ適用などの運用は不要

● バックアップサービス

a. Cloud Backup Service (CBS)

- NASサービスのデータをオブジェクトストレージにBackupするサービス
- 異なるAZやリージョンにもリストア可能

キーワード

- Cloud Manager (無償ツール)
- CVO (サービス/ライセンス販売)
- CVS or ANF (サービス)
- CBS (サービス)

関連動画・資料

- [SHARED Volumes & Snapshots in Google Cloud](#) (英語)
- [ハイブリッド マルチクラウド環境におけるデータ保護](#) (動画2:44-)
- [フルマネージドのクラウドストレージサービス](#) (CBS動画8:05-8:44)
- [ネットアップのクラウドデータサービスご紹介](#) (CBS動画5:00-6:07)